

# かおしず道柔

平成15年3月 静岡県柔道協会発行

事務局 〒431-0302 静岡県浜名郡新居町新居3035-6 石黒金次  
TEL・FAX <053>594-2403

## 「巻頭言」

### 国体の感動をわれらのものに

静岡県柔道協会副会長 八段 高田勝之

平成十五年の新春を迎え、皆様方の益々のご多幸とご発展を祈念申し上げます。

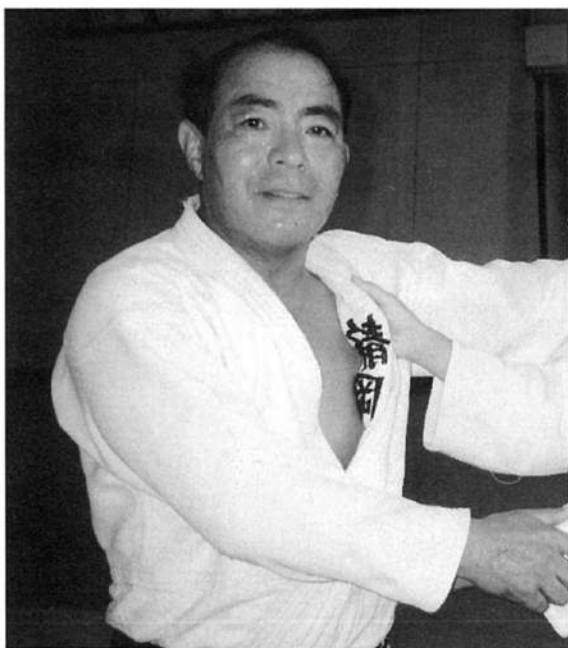
時代は、内にあつては深刻な経済不況、外においては緊迫した国際情勢、わが柔道界におきましても少子化による柔道人口の減少化と厳しい状況が続きますが、希望を失うことなく、歩一歩前進していきたいものです。

今年はいよいよ第五十八回国民体育大会柔道競技が地元浜北市グリーンアリーナで開催される年となりました。柔道を愛してやまない一人として、その成功を願ってやみません。

私事で恐縮ではありますが、この三月をもって四十年に亘る警察人生を卒業することとなります。ふり返って感慨無量の一語に尽きますが、そもそも少年時代から修行してきた柔道を続けた一心から選んだ職業でした。

お陰をもちまして、素晴らしい練習環境と柔道関係者に恵ま

より柔道専門家としてスリランカ共和国に派遣された時のことがあります。当て継ぎだらけの柔道衣でひたむきに学びとろうとする彼らの姿勢に触れ、嘉納師範の創始された講道館柔道の偉大さを再認識することができま



警察学校道場に立つ高田八段

何回か出場させていただく好運に恵まれましたが、残念ながら満足な結果を残したとはいえません。しかし、昭和四十年の大分国体で少年男子が初優勝の快挙を遂げた全試合に立ち会えたことは同郷の一人として、何よりの誇りと思っております。

国体成年監督としては平成九年広島国体で、それまで幾度も涙を吞んでいた香川県チームを撃破して五位入賞を果たした瞬間の感動は忘れることはできません。当時の選手諸君の働きぶりに感謝せずにはいられません。

私のささやかな体験を通して国体の柔道を顧みても、わが県の柔道の意気を示すためには、地元会場において郷土のみならずの熱い声援の中で、選手諸君が十二分にその実力を発揮し、栄冠を獲ることがなにより求められます。

必勝に向けて全精力を傾注されている強化委員会の先生方、強化選手のみならずのご健闘を心よりお祈り申し上げます。そして、高柳会長を中心にして国体成功に向けて、役員一同一致団結して邁進しようではありませんか。

れ、大過なく最後まで柔道衣で道場に立つことができました。改めて、静岡県警の皆様はもちろん、県柔道協会の諸先生をはじめ多くの柔道仲間へ厚くお礼申し上げます。

思い出は尽きませんが、指導者としては、昭和五十二年一月から一カ年間、国際交流基金に

# 〈リハーサル全国教員柔道大会〉 H.14.7.28

## 大成功＝郷土選手も大活躍!!

### ＝ベスト8進出!!＝

第27回全国教員柔道大会は、平成14年7月28日(日)、真新しい浜北市総合体育館(グリーンアリーナ)で開催された。

本大会は第58回国民体育大会(NEW!!わかふじ国体)柔道競技のリハーサル大会でもあり、わが柔道協会は、地元浜北市と連携し、成功に向け万全の準備を進めてきた。

午前8時30分。伝統芸能の飛竜太鼓・葦芽太鼓・天竜厚生会保育園のみなさんのバチ音が会場の静寂を破る。そして、いよいよ選手団の入場。松下三郎大会委員長の開会宣言の後、嘉納行光大会会長の挨拶、さらに地元長谷川正榮浜北市長・高柳喜一県柔協

会長よりそれぞれ心のもった歓迎の言葉が述べられた。選手宣誓は静岡県チームの松野立選手。浜北市出身とあって会場につめかけた地元のみなさんの声援を背に、声高らかに健闘を誓った。

続いて、多年出場者表彰が行

われ、本県では須田直之選手(現静岡商高教員)が六名の15回出場の一人として受賞された。

いよいよ試合開始。本県チームは観覧席を埋めつくす地元ファンの熱い声援に励んで快進



撃につづく快進撃。

(一回戦)

静岡県④——1島根県

- 先 渡部直樹○(小外掛) △武田 涉
- 次 石巻大史○(小外掛) △佐々尾義明
- 中 須田直之△(優勢勝) ○佐々木浩三
- 副 井口往彦○(私 腰) △松原健作
- 大 松野 立○(優勢勝) △平川茂樹

(二回戦)

山梨県0——④静岡県

- 先 岡田一博△(優勢勝) ○渡部
- 次 平井茂樹△(背負投) ○石巻
- 中 名取利章△(背負投) ○須田
- 副 小林 篤△(不戦勝) ○井口
- 大 橋川幸治 × 松野

(三回戦)

静岡県③——1宮崎県

- 先 渡部 △(優勢勝) ○石井一行
- 次 石巻 ○(注意) △山元健嗣
- 中 須田 ○(背負投) △那須雅博
- 副 井口 ○(横四方固) △中西 太
- 大 松野 × 徳永道郎

なんといつても浜北市出身の

副将・大将として攻めに徹した闘志あふれる試合で味方を勝利に導く。だから大歓声が沸き上がるのも無理はない。両選手とも「こういう形で郷土のみなさんの前で試合できるのは一生に一度かもしれない。悔いの残らないよう全力を出しきった」と晴れやかな表情で語ってくれた。

また、41歳の中堅須田選手は15回目の



出場という節目の大会。年下の選手の挑戦に苦戦は免れられないと思いきや、2回戦では3分53秒、全力をふりしぼっての背負投はみごと一本、日頃の精進ぶりを伺わせて、チームの士気を大いに高めてくれた。

全試合貴重な勝点を上げた次鋒の石巻選手の背負投の技の牙え、取るべきところはきちつと先取点を取ってくれる名先鋒渡部選手の巧者ぶり。チーム全員の前向きな姿勢が十余年ぶりのベスト8進出をもたらしてくれたと梶原和洋監督も相好を崩



しっ放しだった。  
しかし、準々決勝の相手は、  
連覇を目指す最強チームの北海  
道。

北海道③——I 静岡県  
先 青山清児 × 渡部  
次 堤 土郎△(優勝)◎石巻  
中 安藤 弥○(大外刈)△須田  
副 村瀬秀行○(小外掛)△井口  
大 酒井伸哉○(合せ技)△松野

軽量陣の健闘で先制するも、  
北海道チーム重量トリオの破壊  
力のすさまじさと磐石の守りの  
前について屈する他なかった。  
そして、大方の予想どおり北海  
道チームが優勝、二連覇の偉業  
を達成した。ここに至って、わ  
が静岡県チームの堂々たる闘い  
ぶりは敗れたりとはいえず、会場  
の人々にさわやかな風を送った

というべきであろう。  
本大会の会場となったグリー  
ン・アリーナはモダンな外観ば  
かりでなく、隅々まで行き届い  
た素晴らしい施設として選手・  
役員・観客のみなさんに概ね満  
足していただけたことと思う。

しかし、タイマーの一部が照  
度と色合いの関係で見えにく  
かった点など、細かい所では改  
善の余地がある。特に運営にあ  
たる各係の任務に手落ちや問題  
点はなかったか、全柔連の浅  
野・高石両先生より懇切なご指  
摘もいただいているので、きめ  
細かな反省総括のもと、来たる  
べき本大会成功に向けて一層の  
努力が求められることになるだ  
ろう。

閉会式の準備の間を使って、  
全柔連広報委員でもある、地元  
出身の溝口紀子先生より「柔道  
ルネッサンス」について会場の  
みなさんにわかり易いPRが行  
われた。また、四方の観客席前  
には、「柔道ルネッサンス」「来  
たときよりも美しく」「礼は美し  
い柔道の心」「柔道はマナーで一  
本」の垂れ幕が張られ、こうし  
た地道な積み重ねがやがては大  
きなうねりとなり、講道館柔道  
を発展させていくのだとつくづ  
く思わされた。

この大会が無事に幕を下ろす  
ことができ、第58回静岡国体成  
功への展望が拓かれたのも、嘉  
納会長をはじめ多数の役員の先  
生方のご支援、地元浜北市関係  
各位のご尽力の賜にほかならな  
い。そうしたご厚意に応えるた

めにも、高柳会長のもと我ら柔  
道協会役員一人ひとりが責任を  
自覚し、一致団結して来たるべ  
き本大会に臨まなければならな  
い。



〈よさこい国体〉H.14.10.27~29 於 高知県宿毛市

# 強敵のカベ厚し

## = 上位進出ならず = 課題を残す

第57回国民体育大会柔道競技大会は、平成14年10月27日より3日間、高知県宿毛市総合運動公園市民体育館で行われた。

今回は成年女子が東海地区予選で代表権獲得ならず、成年男子と少年男女三種目に出場、静岡県国体前年であるだけに必勝を期して闘いに挑んだが、強敵に行手を阻まれ、入賞を果たすことができなかった。試合結果は次のとおり。

第一日目(10月27日)  
(少年男子)一回戦

宮崎県①——1静岡県

先 塚内勇太 × 川島靖史  
次 坂元清志郎△(四方固)○川端常弘  
中 長部孝太 × 青木輝海  
副 井上大助○(合せ技)△土屋彰裕  
大 大和 充 × 西川和己  
代表戦

大和 充(○払腰)△川端常弘  
(少年女子)一回戦

群馬県1——①静岡県

先 清水美和○(送足払)△村松香澄  
中 栗原美樹 × 馬場あゆみ  
大 廣田泰子△(四方固)○岡田紘味  
代表決定戦

栗原美樹△(優勢)◎岡田紘味  
二回戦

奈良県①——0静岡県

先 西本晴菜 × 村松香澄  
中 岡田真理子 × 馬場あゆみ

大 駒水志保 × 岡田紘味  
代表決定戦  
駒水志保●(判定)△岡田紘味

第二日目(10月28日)  
(成年男子)一回戦

岡山県0——④静岡県

先 今井公平△(大内刈)○渡部成也  
次 岡本智志△(送足払)○井川清隆  
中 菊川 顕 × 大村恭一

副 大可益久△(背負投)○大村昌弘  
大 香川義篤△(合せ技)○近野貞治  
二回戦

千葉県③——0静岡県

先 小川武志○(背負投)△渡部成也  
次 小室宏二 × 井川清隆  
中 村田龍一○(内 股)△大村恭一  
副 中村和裕○(大内刈)△大村昌弘  
大 中濱真吾 × 近野貞治



### 第57回高知国体 静岡県柔道競技選手団

総監督 野田昭一 (静岡学園教員)

総務 富田偉沙生 (清水東高教員)

伊藤武治 (浜北西高教員)

トレーナー

柁津雅彦 (勝浦整形外科)

田近真理 (勝浦整形外科)

〈成年男子〉  
監督 宇佐美博之 (静岡県警察)

コーチ 米山安基夫 (県警察学校)

渡辺達也 (県警察機動隊)

先鋒 渡部成也 (静岡県警察)

次鋒 井川清隆 (総合警備保障)

中堅 大村恭一 (県警察機動隊)

副将 大村昌弘 (了徳寺学園)

大将 近野貞治 (総合警備保障)

〈少年男子〉  
監督 間宮幸男 (興誠高教員)

コーチ 宮本昌人

柔道祭

平成14年4月27日(土)草薙体育館で第44回静岡県柔道祭が開かれた。

今年度の協会表彰者は

〈特別功労賞〉

八段 瀧井康次郎

七段 飯田 稔

七段 早川 六二

参段 杉浦宗俊

〈功労賞〉

六段 間部 卓 小笠原 淳

金指邦浩 宇佐美博之

長谷川雅弘 須田直之

中村寿一 白井康二

五段 平井幸逸 増田智昭

佐野重男 鈴木 努

佐藤正次 森 順次

塩谷和康 村松 豊

渡辺正人 衣笠照隆

四段 鈴木隆之

以上 23名が表彰された。

引き続き、講道館柔道形の部の競演があり、四種目にわたり、東海大会予選を兼ねて行われた。

〈投の形〉

東部 〆五段 小山 岳

〆三段 木内好彦

(富士市柔道会)

中部 〆七段 磯部正博

〆六段 藤野公一 (静岡県警察)

西部 〆三段 根岸一也

〆二段 小出浩雅 (浜北体協)

中部 〆四段 山内寿幸 (静岡刑務所)

〆初段 大橋雅之 (滝井道場)

西部 〆四段 伊藤厚志 (滝井道場)

〆三段 川島伸夫 (福田柔道クラブ)

〆四段 金原雅樹

〆三段 寺田 光 (福田柔道クラブ)

東部 〆六段 小笠原 淳

〆六段 金指邦浩

中部 〆六段 杉本昌司 (滝井道場)

〆五段 落合伸美 (静岡刑務所)

西部 〆七段 西島温行

〆七段 磯部正博 (福田柔道クラブ)

審査の結果、最優秀賞に

投の形II磯部・藤野組

固の形II伊藤・川島組

護身術II金原・寺田組

五の形II西島・磯部組

が選ばれ、東海大会出場権を得た。

試合の結果は次のとおり

〈小学の部〉

1位 清水柔専塾

2位 柔道育成館道場

3位 福田柔道クラブ

3位 静岡東部柔道クラブ

〈中学の部〉

1位 原中

2位 浜名中

3位 新居中

3位 北浜東部中

〈高校の部〉

1位 浜松商業高

2位 静岡学園高

3位 日大三島高

3位 沼津学園高

〈一般の部〉

1位 (株)総合警備保障静岡

2位 (株)総合警備保障浜松

3位 富士市柔道会

3位 静岡産業大

〈優秀選手〉

〈小学生〉

大木英司 (清水柔専塾)

新村三四郎 (育成館道場)

〈中学生〉

朝香拓己 (原中)

木下敦広 (浜名中)

〈高校生〉

川端常弘 (浜松商業高)

増田龍二 (静岡学園高)

〈一般〉

井川清隆

(株)総合警備保障静岡

杉山 崇

(株)総合警備保障浜松

〈中学女子個人〉

〈44kg級〉

1位 清水明子(富士宮二中)

2位 清水 愛(富士宮二中)

3位 千葉夕貴(袋井体協)

3位 剣持友美(安原柔道館)

〈52kg級〉

1位 中坊彩葉(富士宮二中)

2位 池谷亜梨紗 (高山柔道塾)

3位 太田夕霞 (北浜中)

3位 小田巻美妃 (賤機中)

〈63kg級〉

1位 内之倉奈未(福田柔ク)

2位 青山夏美(福田柔ク)

3位 白井未希(新居中)

3位 神田 愛(橋中)

〈63kg超級〉

1位 足立 恵(藤枝柔俱)

2位 大賀麻衣(福田柔ク)

3位 増田奈美

3位 室伏由貴(裾野西中)

(静岡学園中)

渡部直樹 (常葉橋高教員)

先鋒 川島靖史 (静岡学園教員)

次鋒 川端常弘 (磐田北高校)

中堅 青木輝海 (浜松商業高校)

副将 土屋彰裕 (沼津学園高校)

大将 西川和己 (浜松商業高校)

(東海大翔洋高)

〈少年女子〉

監督 勝呂良三 (庵原高校教員)

コーチ 須田直之 (静岡商高教員)

先鋒 村松香澄 (庵原高校)

中堅 馬場あゆみ (庵原高校)

大将 岡田紘味 (天竜林業高)

〈支援強化選手〉

コーチ 梶原和洋 (御殿場高教員)

選手 沼野由香利 (藤枝南女高教員)

真野洋光 (静岡学園高)

梅原友佳 (東海大翔洋高)

富永菜美 (庵原高)

県民スポーツ祭

第56回静岡県民スポーツ祭柔道競技は、平成14年11月10日(日)新装なった静岡県武道館(藤枝市)で開かれた。試合に先立って、協会より特別表彰が行われた。

(優秀選手賞)

○大村昌弘(了徳寺学園)

平成14年度全日本選手権第3位

○吉田卓実(聖明病院)

第32回全日本実業団100kg級第2位

○川端常弘(浜松商業高校)

第34回全日本ジュニア73kg級第2位

○清水明子(富士宮二中)

第33回全国中学女子44kg級第2位

○足立 恵(吉田中)

第33回全国中学女子70kg超級第3位

○西島温行・磯部正博

平成14年度全日本「形」五の形第3位

○稲葉統也

I B S A世界選手権団体優勝

試合結果は次のとおり

(成年の部・市対抗)

1位 (株)総合警備保障浜松

2位 富士宮柔道会

3位 藤枝柔道倶楽部

3位 焼津誠道館

(成年の部・町村対抗)

1位 伊豆長岡柔道会

2位 韮山町柔道教室

3位 清水町柔道会

3位 長泉柔道会  
(少年A男子市対抗)

1位 東海大翔洋高(清水)

2位 静岡学園高

3位 浜松工業高

3位 藤枝明誠高

(少年A男子町村対抗)

1位 大井川高

2位 土肥高

3位 新居高

3位 気賀高

(少年A女子市対抗)

1位 天竜林業高

2位 東海大翔洋高(清水市)

3位 湖西高

3位 藤枝南高

(少年A女子町村対抗)

1位 庵原高

2位 福田柔道クラブ

3位 気賀高

3位 韮山高

(少年B男子市対抗)

1位 浜名中(浜北市)

2位 原中(沼津市)

3位 静岡学園中

3位 清水市体協

(少年B男子町村対抗)

1位 新居中

2位 大東町柔道クラブ

3位 大井川中

3位 豊田柔道クラブ

(少年B女子市対抗)

1位 藤枝柔道倶楽部

2位 富士宮二中  
3位 静岡学園中

3位 北浜中(浜北市)

(少年B女子町村対抗)

1位 福田柔道クラブ

2位 長岡中(伊豆長岡町)

3位 岡部中

3位 新居町

(少年C市対抗)

1位 三島柔道会

2位 清水柔専塾

3位 浜北柔道スポーツ少年団

3位 静岡東部柔道クラブ

(少年C町村対抗)

1位 新居町柔道少年団

2位 福田柔道クラブ

3位 大仁柔道会

3位 清水町柔道会

総合得点では

(市対抗) 20市参加

1位 清水市 10点

2位 静岡市 8点

3位 藤枝市 7点

4位 浜松市 6点

(町村対抗) 23町村参加

1位 韮山町 10点

2位 新居町 8点

3位 福田町 7点

4位 伊豆長岡町 6点

速報

第25回全国高校選手権 静岡大会

平成15年1月25日(土)、静岡北部体育館で第25回全国高校選手権静岡大会個人戦が行われた。試合結果は次のとおり。

(男子無差別級)

1位 真野洋光(東海大翔洋)

2位 山下晃司(浜松商)

3位 神田祐佑(常葉学園橘)

3位 谷澤孝洋(藤枝明誠)

(女子)

○48kg級

1位 金子 歩(藤枝南女子)

2位 鈴木紀妙(浜松商)

3位 池田桂子(常葉学園橘)

3位 斎藤美佳(浜松工)

○52kg級

1位 村松香澄(庵原)

2位 大川千明(常葉学園橘)

3位 山田恵子(三島南)

3位 西島百々子(沼津市立)

○57kg級

1位 田口裕子(浜松商)

2位 小野川美樹(天竜林業)

3位 石神麻琴(藤枝南女子)

3位 金子佳未(市立沼津)

○63kg級

1位 澤口友紀(常葉学園橘)

2位 杉山希美(東海大翔洋)

# 訃報

平成14年度、わが協会は名誉会長望月映英先生をはじめ、4名の役員を喪い、お詫れをしなければなりません。ここに改めて、故人の残された多大の業績を偲び、ご冥福を衷心よりお祈り申し上げる次第です。

## (東部地区) 名誉会長

八段 望月映英様  
平成14年7月3日逝去 74歳

## (中部地区) 第一審議委員

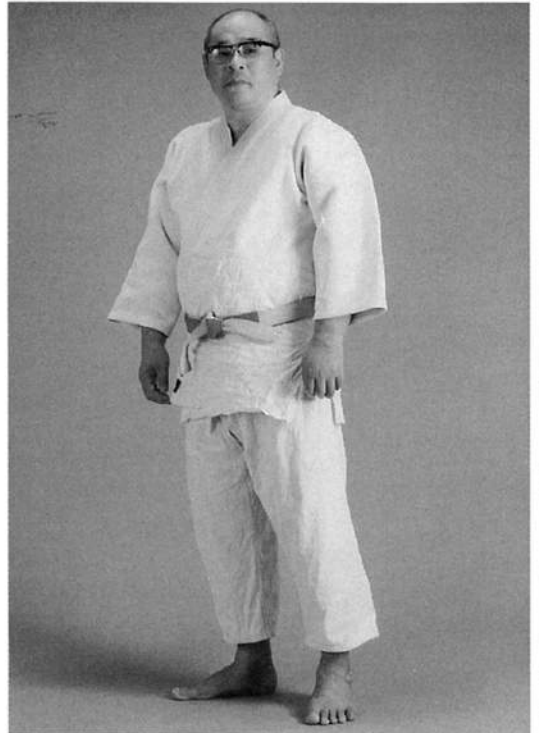
六段 作川武禧様  
平成15年1月14日逝去 61歳

## (西部地区) 顧問

八段 天野芳郎様  
平成14年9月26日逝去 89歳

## 地区顧問

六段 高柳竹一様  
平成14年11月11日逝去 81歳



故 望月八段

### 望月八段

昭和3年静岡市生まれ。三島商業卒。柔道整復師となり、大仁町にて整骨院を開業する一方、柔道に情熱を注ぎ大仁柔道会を設立。選手として恵まれた体軀と精進努力により全日本選手権出場をはじめ数々の栄冠に輝く。平成2年より第五代県協会会長としてその発展に寄与。平成10年県協会創立50周年記念事業の指揮を執る。

### 天野八段

浜松市生まれ。浜松工業卒。養神館黄金期の名選手として活躍。中国に陸軍中隊長として従軍、復員後、郵便局長を務める一方、西部地区協会の重鎮として後進の指導



故 天野八段

に当たり、協会の発展に寄与。



故 作川六段

石川県生まれ。國士館大出身。昭和39年より藤枝東高を初めに島田高に至るまで、中部地区5高校で教鞭を執り、柔道部顧問として選手育成に励む。一方、地元藤枝柔道倶楽部に属し自ら修行を続け、副会長として中西部地区柔道振興にその要となり貢献、誠実・温厚な人柄で柔道部の教え子に慕われた。



故 高柳竹一六段

浜北市生まれ。昭和27年浜北体協柔道部創設に尽力、一貫して地域柔道育成に努め、平成2年には、自ら「竹の子道場」を開き、青少年の健全育成に貢献してきた。

- 3位 庄司菜々子(市立沼津)
- 3位 永手直美(磐田東)

- 70kg級
- 1位 松本笑嘉(磐田東)
- 2位 馬場あゆみ(庵原)
- 3位 梅原友佳(東海大翔洋)
- 3位 松本美杉(藤枝南女子)

- 78kg級
- 1位 鈴木美穂(天竜林業)
- 2位 小田巻優季(東海大翔洋)
- 3位 保坂 優(常葉学園橘)
- 3位 平野雅絵(市立沼津)

- 78kg超級
  - 1位 岡田紘味(天竜林業)
  - 2位 富永芙美(庵原)
  - 3位 滝川知美(東海大翔洋)
  - 3位 田中美希(藤枝南女子)
- つづいて、平成15年2月1日(土)、同じく静岡北部体育館で男子団体戦が行われた。

- (決勝戦)
- 浜松商業○(三人残し)△東海大翔洋
- 先 鈴木章平 × 宮前 稔
  - 次 岡本宗政○(背負投)△岸田真実
  - 中 " " ○(腕挫腰固)△中村隆広
  - 副 " " × 真野洋光
- 大 竹上桂吾◎(効果) 朝比奈竜真
- 山下晃司
- 坪山勇太
- 1位 浜松商業
  - 2位 東海大翔洋
  - 3位 静岡学園
  - 3位 沼津学園

## 紹介 フレッシュわれらが柔道 (その2)

# 希望の星につづけ

(その一) なんとといっても、我々ら静岡の柔道人にとつてのビッグニュースは、シドニーオリンピック81kg級ゴールドメダリスト、ご存じ瀧本誠選手が、(株)武興II高柳喜一商店に所属し、静岡県の選手として柔道活

と大試合に挑み、ついに大輪の花を開かせた。

昨年11月24日、講道館杯体重別選手権では、81kg級でチャンピオンとなり、29歳油の乗り切った健在ぶりを示している。今年の全日本選手権も東海地区



長谷川浜北市長 瀧本選手 高柳会長

動をつづけることになったことである。  
瀧本選手は、茨城県岩井市出身。講道学舎に入門、弦巻中、世田ヶ谷学園を経て日本大学に進み、天才といわれる切れ技鋭い内股・袖釣込腰をもって、次々

勝ち。三回戦、宗真一郎選手(九州電力)を合せ技で一本勝ち。準々決勝では強敵増地克之選手(桐蔭横浜大教員)を2分32秒必殺の支釣込足で文句なしに降し、ついに準決勝進出を果たし注目の的、棟田康幸選手(明治

より挑み、本番の国体にも大活躍が期待されている。

(その二) 快拳といえば、大村昌弘選手が、平成14年4月29日、二度目の全日本選手権大会において見事三位入賞を果たしたことを忘れるわけにはいかない。

二回戦、工藤龍輝選手を払巻込で一本

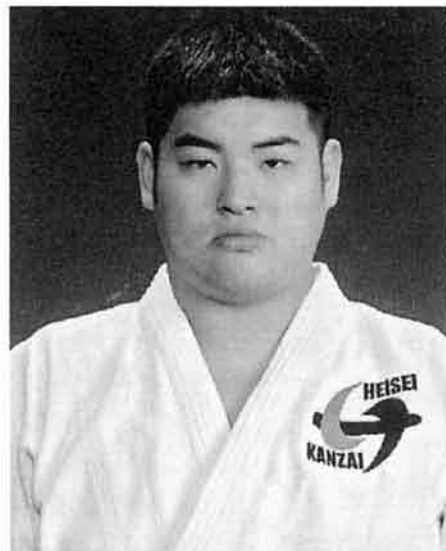
大)と激突。惜しくも有効を取られ敗れたりとはいえ、静岡県選手として初めての三位入賞の意味は大きい。

現在はず徳寺学園に所属し、瀧本選手とともに、三度全日本選手権に挑もうとしている。

(その三) 平成14年9月8日、ジュニアオリンピック全日本ジュニア柔道体重別選手権大会で、73kg級準優勝を遂げた川端常弘選手(浜松商業高)も明日の柔道静岡を背負う期待の星である。

夏の高校総体で初めて五位に入賞したことが大きな自信となり、県内の高校生としては決勝戦進出は初めての快拳。その実績を買われ、講道館杯にも初出場を果たした。

(写真提供…静岡新聞社)



大村選手



川端選手